

附録の写真(その3)

PAS kara News の附録その他

附録の写真の3回目になります。PAS kara News の附録とした写真や自分のインスタグラム等にアップしたもの、さらに最近撮りためたものも含めてみました。

前回と同様に写真掲載の順序には年代や季節に関わりなく、簡単な説明を付けた形式にしています。

作者:足立 博一

2026 年 9 月 20 日

高校1年生（1970年4月）

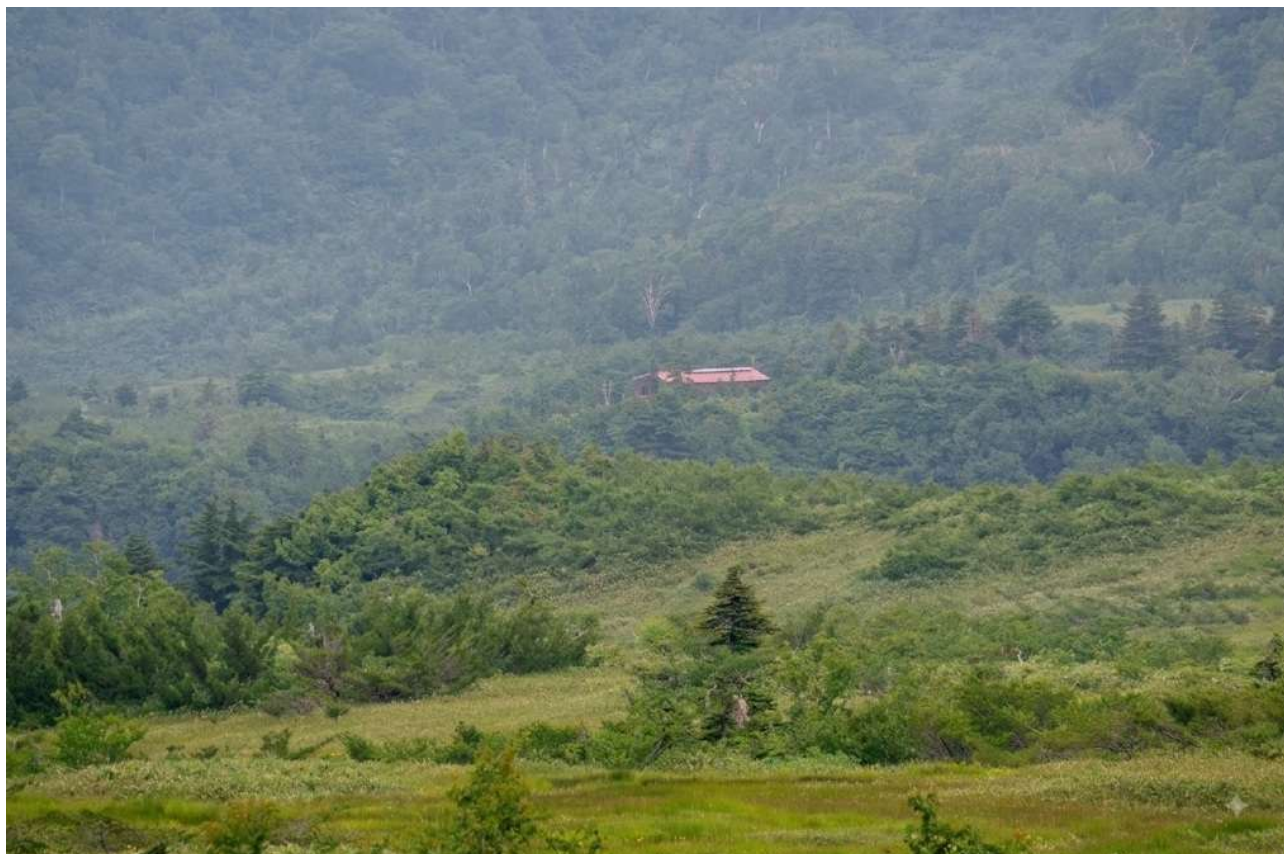


石川県立金沢二水高等学校 APR 1970

1970年当時は石川県内の市立中学男子は全員丸刈りだった(附属中学以外)。なので入学して一ヶ月前後は丁度毛が伸び始めてきた頃になる。2026年に高校3年生の同窓会に参加した。この写真の中にも3年生の同級生が数人いるがすっかり容姿が変わっていたので、もはや個人情報も何もないだろうとあえて公開してみた。後に見える校舎は主に音楽室や書道室などいわゆる特別授業の部屋や職員室、食堂があったが今は改築されて当時の面影はない。

この中で今でも連絡がとれるのは、たまたま富山に住んでいる女性ただ一人だけで、十年ほど前に富山に来てから初めて会って話をしたが全く容姿が変わってしまっていて驚いた。彼女も内心同じ気持ちだっただろう。

弥陀ヶ原（2026 年 8 月）

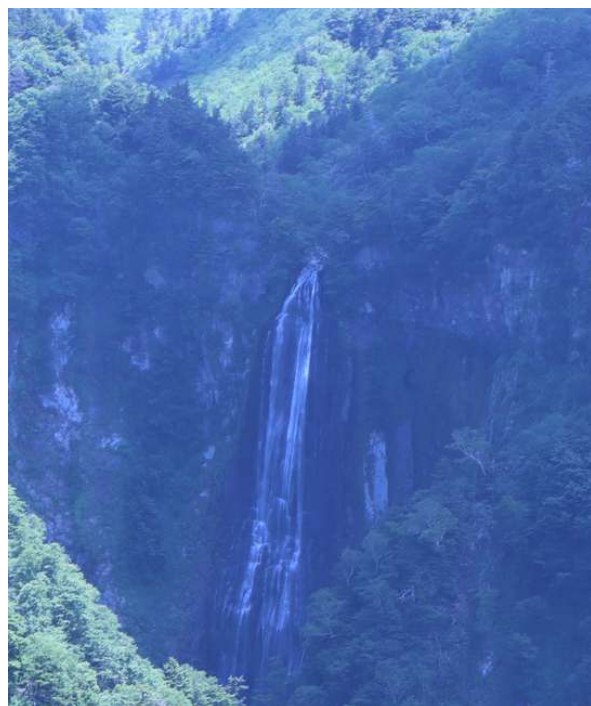


遠く中央に見えるのが大日平山荘で大日平の東隅に建っている山小屋。私が撮影している場所は弥陀ヶ原という高原湿地帯。

大日平と弥陀ヶ原の間には称名溪谷という深い谷が形成されている。中央付近になんとか写真の上下を分ける境界があるのが分かるだろうか。それが称名溪谷になる。

この弥陀ヶ原と大日平の一帯はかつて立山火山が作った溶岩台地になるが、ラムサール条約の湿地帯として登録された。これらの高原にはガキの田と呼ばれる池塘が点在している。

また大日平山荘の裏からはこの弥陀ヶ原から流れ落ちる不動滝（右写真）が見られるのだが、弥陀ヶ原にいる限りその滝を見ることはできない。



今年も頑張る稲穂かな（2026 年 9 月）



昨年是一片に稲穂が満ちていた田んぼ。今年の春先も田んぼは水で満ちていた。

そのうちに水は引き無くなっていった。

やがて秋を迎え雑草が何本か生えているのかと思いきや、昨年刈り取ったはずの稲の脇からたくましく稲穂を垂れる稲が育っていた。

しかし、穂は白く見えて中身はおそらくスカスカなのだろう。

去年までここで稲作をしていた人はどうしたのだろうか？

亡くなってしまったのか？

なんだか死後の世界から手招きしているようにも見えてしまう。

来年からはこいつらをゾンビ稲穂と呼んでやろう。

津軽じょんがら節（2026年8月）



青森と言えば、ねぶた祭りで有名だが、初めて青森に来たのは1975年8月2日の夕方に大阪から急行列車「きたぐに」で着いて以来なので実に51年ぶりになる。当日はねぶた祭りの前夜祭でそのパレードを見た私の当時のメモ書きにあったが記憶には無い。そして午前2時半発の青函連絡船で函館に渡り二週間近い私の北海道一人旅が始まった。

また青森と言えば津軽三味線も有名である。青森港の近くに「大福丸」という居酒屋があり、午後6時45分から津軽三味線の演奏があるというので入ってみた。

予約で一杯との情報もあったが午後5時に店に入るとテーブルの予約席の札も少なく、むしろ演奏場目の前の席に通してくれた。演奏が始まるまで1時間45分を呑み食いしながら過ごすはめになったが、3曲の津軽三味線を目の前で堪能できたのでラッキーだった。